

2016年度

事業報告書

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

学校法人 岐阜済美学院

学校法人岐阜済美学院の2016年度の事業概況を次のとおりご報告します。

当学院は地域に根ざす総合教育機関として、福音主義のキリスト教に基づく建学の精神を礎として、福祉・看護・教育等様々な分野に有為な人材を輩出することを重要な方針としています。

文部科学省は2012年「大学改革実行プラン」を発表し、国民や社会の期待に応える大学改革を主体的に実行する体制構築を求め、2013年から2014年度を「改革集中実行期」と位置づけ、2015年度から2017年度に取組の評価・検証、改革の深化発展を求めています。

本大学、短期大学部ではこの「大学改革実行プラン」への取り組みとして、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」（COCプラス）に岐阜大学の協力校として本学（大学）が参加し、また岐阜県内の就職率向上に向けたキャリアサポート支援を推進しました。この他、今年度も文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」の採択を受け、活性化設備補助金等の補助金を獲得しました。さらに2015年度からの文部科学省「私立大学経営強化集中支援事業」は、大学及び短期大学部で2年連続採択を受けております。また、東洋経済 ONLINEにて「生徒を伸ばしてくれる大学」ランキング100において、本学は東海地区の私立大学で第1位に選ばれています。このように各種補助金の獲得や大学ランキングは、本学の教育改革の推進が一定の評価を得ている証と捉えています。

現在、大学及び短期大学部では、両学長のリーダーシップの下、大学改革を推進しています。ひとつに学院本部との連携を図り、大学経営会議において「第1期中期計画（アクションプラン）」をPDCAサイクルに基づき計画、点検、見直しを推進する仕組みを構築しつつあります。

また、大学（4大）では、2017年度に大学基準協会の大学評価を受けるため「自己点検・評価報告書」の申請を行いました。さらに、短期大学では、大学間の相互評価制度等の取り組みに向けて、新潟市の新潟青陵大学短期大学部と9月に連携協定を締結し、大学間の相互交流を始めています。

なお、2017年度には中部学院大学は開設20周年、中部学院大学短期大学部が開設50周年を迎えます。岐阜済美学院100周年と協働し、周年事業等の準備にも取り組んでおります。

本学は、地域に根ざした大学、地域に評価される大学を目指しています。2016年度は地域との連携強化をさらに図り、現在では県内の市町村と連携協定は9例目となっています。さらに、運動部の活躍やスポーツ健康科学部の設置を踏まえ、7月に（公）岐阜県体育協会、8月に（一）岐阜県障害者スポーツ協会と連携協定を締結しました。また、2月には（株）大垣共立銀行、（株）トーカイとの3者による「福祉・医療・教育分野の発展に向けた連携協力に関する協定」を締結し、地域の福祉と子育て環境の発展に関する事業等を行っています。

また、岐阜大学を拠点とする文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方

創生推進事業（COC+）」に参加し、地元貢献する学生育て「地域志向産業リーダーの協働育成」に取り組むため、地域公開講座「スポーツを通じた地域活性化」を開催するなど様々な活動や地域との交流事業を実践しています。

大学及び短期大学部では、両学長及び副学長のリーダーシップの下、様々な施策に取り組むため、新たに設けられた大学経営会議、また学長・副学長会議において課題を精査し、教学面経営面の両面で実効性の高い中長期的な計画立案を図ってまいります。

高等学校においては、特色あるカリキュラムにより、教育効果を高め、生徒が確かな学力とともに豊かな人間性を養い、志望大学に合格し、後に続く生徒の範となりうるような教育を目指した結果、これまで以上に国立大学や難関私立大学へ合格する等、特色ある教育の成果が現れています。

附属幼稚園及び附属桐が丘幼稚園においては、特色ある保育を推進し保護者のニーズに応えています。

1. 教学改革

- ・「スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学科」の設置
- ・新体育館の建設
- ・退学率の減少施策検討

2 施設設備の拡充

- ・大学
：新体育館の建設 (972百万円)
実習棟の建設 (232百万円)
教学システム (65百万円)
- ・高校
：体育館第一体育室全面改修 (4百万円)
- ・附属幼稚園
：園舎外壁塗装 (5百万円)
- ・桐が丘幼稚園
：園舎内装工事 (3百万円)

3. スポーツ等の活躍

<大学・短大>

- ・硬式野球部、東海大学野球秋季岐阜リーグ戦で優勝し、東海大会に出場。
- ・床田寛樹、プロ野球ドラフト会議で広島東洋カープから3位指名。
- ・陸上競技部、五藤怜奈がローマで開かれた「世界競歩チーム選手権」に日本代表選手として出場し、シニア女子20キロで日本人2位となる。
- ・杉村ふうか、車いす競技でIWAS U23世界競技会や日本パラ陸上競技選手権に出場。
- ・ゴルフ部、第60回信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦や第63回朝日杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦等において個人と団体において好成績を収める。

<高校>

- ・新体操部、全国大会で個人総合優勝。
- ・ライフル射撃部、全国選手権大会で上位入賞。

- ・茶華道部、岐阜県ユネスコ協会から『青少年グランプリ人権文化賞』受賞。
- <幼稚園>
- ・附属幼稚園、第76回全国教育美術展で園児3名が入選。
 - ・桐が丘幼稚園、第37回こども絵画全国コンクールで銅賞を受賞。

4. 今後の課題

1) 大学

①教育体制の充実・強化

- ・特色ある教育プログラムの積極的な展開（教員への教育支援（FD）、国家試験対策の充実・強化）
- ・学生募集戦略の強化
- ・退学率減少に向けた施策強化

②財政基盤の整備・強化

- ・予算管理の充実（管理経費の見直しによる最適化）
- ・各種業務の再構築（ビジネスプロセスの見直しによる業務の有効性・効率性向上、購買方法の見直しによる効率的な発注システムの構築）
- ・外部資金の受け入れ強化

③人材育成の強化

- ・人材育成ポリシーの策定
- ・キャリアパス、研修制度の充実、SD教育

2) 高校

- ・教職員が危機意識を共有し自己の資質の向上とモチベーションの高揚に努め、一致協力して、教育の質を保証する学校を着実に具現

3) 幼稚園

- ・特色のある園・保育の推進

目次

I 法人の概要

- 1. 設置する学校・学部・学科等 5
- 2. 学院設置学校（園）の入学定員及び学生・生徒・園児の状況 5

II 事業の概要

- 1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部の事業 9
- 2. 済美高等学校の事業 12
- 3. 中部学院大学短期大学部附属幼稚園の事業 17
- 4. 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園の事業 19

I 法人の概要

1. 設置する学校・学部・学科等

- * 中部学院大学[1996（平 8）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘 各務原市那加
 大学院 人間福祉学研究科 人間福祉学専攻 [修士課程] [博士課程（後期）]
 人間福祉学部 人間福祉学科
 教育学部 子ども教育学科
 看護リハビリテーション学部 理学療法学科・看護学科
 経営学部 経営学科
 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科
 通信教育部 人間福祉学部 人間福祉学科
 留学生別科
- * 中部学院大学短期大学部[1967（昭和 42）年 1 月設置] 関市桐ヶ丘 各務原市那加
 幼児教育学科
 社会福祉学科
 専攻科(福祉)
- * 済美高等学校[1918（大 7）年 9 月設置] 岐阜市正法寺町
 男女共学部 普通科・商業科
 女子部 普通科・保育科・衛生看護科
- * 中部学院大学短期大学部附属幼稚園[1973（昭和 48）年 2 月設置] 岐阜市下土居
- * 中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園[1979（昭和 54）年 12 月設置] 関市桐ヶ丘

2. 学院設置学校（園）の学生・生徒・園児数

2016.5.1 現在

(1) 学校別総計

(単位 人)

学 校 名	学生・生徒・園児数
中部学院大学大学院	20
中部学院大学	1,428
中部学院大学（通信教育部）	721
中部学院大学（留学生別科）	18
中部学院大学短期大学部	353
済美高等学校	796
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属幼稚園	204
中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園	182
子ども家庭支援センター（桐が丘幼稚園分室）	8
計	3,730

(2) 各学校別学部・学科別学生・生徒・園児数

＜中部学院大学（学部・学年別）学生数＞

(単位人)

学部・学科	入学員	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	計
人間福祉学研究所						
修士課程	5	1(0)	7(1)	-	-	8 (1)
博士課程	3	2(1)	1(0)	9(6)	-	12 (7)
計	8	3(1)	8(1)	9(6)	-	20 (8)
人間福祉学部						
人間福祉学科	100	64(27)	82(39)	85(49)	79(50)	310 (165)
健康福祉学科			1(1)	1(1)	46(28)	48 (30)
計	100	64(27)	83(40)	86(50)	125(78)	358 (195)
教育学部						
子ども教育学科	80	65(17)	89(16)	69(26)	67(21)	290 (80)
看護リハビリテーション学部						
理学療法学科	60	67(48)	68(49)	66(43)	50(31)	251 (171)
看護学科	80	68(21)	85(24)	75(12)		228 (57)
計	140	135(69)	153(73)	141(55)	50(31)	479 (228)
経営学部						
経営学科	80	89(79)	65(55)	79(60)	68(50)	301 (244)
合 計	408	356(194)	398(186)	384(197)	310(180)	1,448 (757)
通信教育部 (正科生)	300	22 (7)	59(22)	156(52)	484(155)	721 (236)
留学生別科	30	18 (7)				18 (7)
総 計	738	396(207)	457(207)	540(249)	794(335)	2,187 (998)

注 () 内は、男子数で内数

人間福祉学科3年次編入定員15人・子ども学科3年次編入定員10人・経営学科3年次編入定員5人
通信教育部1学年の入学手続き締切は6/14

2014年4月よりリハビリテーション学部を看護リハビリテーション学部に変更

留学生(人間福祉学科12人,健康福祉学科5人,経営学科41人,大学院1人,計59人)

2015年4月より子ども学部子ども学科を教育学部子ども教育学科に変更

< 中部学院大学短期大学部（学科・学年別）学生数 >

(単位 人)

学 科	入学定員	1 学年	2 学年	計
幼児教育学科	100	100 (7)	106 (8)	206 (15)
社会福祉学科	80	79 (17)	53 (12)	132 (29)
計	180	179 (24)	159 (20)	338 (44)
専 攻 科	30	15 (1)	—	15 (1)
総 計	210	194 (25)	159 (20)	353 (45)

注 () 内は、男子数で内数

社会福祉学科のうち、委託訓練生 36 名 (1 年生 15 名、2 年生 21 名) 含む

< 済美高等学校（科・学年別）生徒数 >

(単位 人)

学 科	募集定員	1 学年	2 学年	3 学年	計
男女共学部普通科	115	42(18) [2]	38(15) [2]	22(7) [2]	102(40) [6]
男女共学部商業科	40	20(7) [1]			20(7) [1]
女子部普通科	130	136 [4]	131 [4]	124 [4]	391 [12]
女子部保育科	60	50 [2]	46 [2]	41 [1]	137 [5]
女子部 衛生看護科	40	21 [1]	31 [1]	38 [1]	90 [3]
女子部商業科	—		29 [1]	27 [1]	56 [2]
計	385	269(25)[10]	275(15)[10]	252(7) [9]	796(47)[29]

注 () 内は、男子数で内数

[] 内は、クラス数

< 中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属・幼稚園(年齢別)園児数 > (単位 人)

	収容定員	満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
附属幼稚園	200	0 [1]	70 [3]	66 [2]	68 [2]	204 [8]
桐が丘幼稚園	200	1 [1]	59 [3]	64 [2]	58 [2]	182 [8]
計	400	1 [2]	129 [6]	130 [4]	126 [4]	386 [16]

注 [] 内は、クラス数

< 子ども家庭支援センター(桐が丘幼稚園分室) 幼児数 > (単位 人)

	幼 児
ひよこ	8

< シティカレッジ関(延べ受講者数) >

	前 期	後 期	計
ビジネス系講座	19	13	32
福祉系講習	126	98	224
外国語講座	101	98	199
健康・スポーツ講座	280	294	574
教養・趣味等講座	131	103	234
司書	19	0	19
計	676	606	1,282

< シティカレッジ各務原(延べ受講者数) >

	前 期	後 期	計
アインシュタインコース	198	178	376
ソクラテスコース	503	459	962
レオナルドダビンチコース	313	182	495
計	1,014	819	1,833

※アインシュタインコース : 特別な分野に興味・関心を持つ中学生までのコース

ソクラテスコース : ゆっくりじっくりと自分独自の大学生活を味わうコース

レオナルドダビンチコース : 道を究め専門的な技術や知識を高めるコース

II 事業の概要

1. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部の事業

1. 教育方針

中部学院大学並びに中部学院大学短期大学部は、キリスト教福音主義のもと建学の精神を「神を畏れることは知識のはじめである」と定め、医療・教育・福祉・スポーツ健康・経営の各領域に亘る現場経験の豊富な教授陣による教育と、こころ豊かな人間性を育ていく生活環境を整え、一人ひとりの学生に対して自分自身の未来を実現するための指導体制を展開しています。

2-1. 事業報告(大学)

2016年度は、大学院3名、大学353名、留学生別科18名、総数374名(さらに通信教育部は313名)が大学に入学しました。

2016年度は、既設の「経営学部経営学科」(80名)の定員を振り替える形で「スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科」(80名)を申請し認可を受けました。「スポーツ健康科学部」は、人間の運動(スポーツ)を科学的に追及する力量を養い、地域社会のスポーツ分野、スポーツ産業界、教育分野において活躍できる人材の輩出を目指すものであり、あわせて高等学校教諭1種免許状(保健体育)の取得のための養成を行うものです。さらに、新学部の設置を踏まえ、体育館の建て替え及び運動学実習棟を新設します。新しい体育館は鉄骨2階建て、延床面積は約2,830㎡。運動学実習棟は、鉄骨平屋建て、床面積は約455㎡となります。なお、体育館・運動学実習棟の竣工記念式典を6月10日(土)に予定しています。

また、満足度100%を目指すキャリア支援センターでは、きめ細かな就職指導を行った結果、2016年3月の卒業生における就職希望者における就職率は98.0%となりました。さらに、2017年3月の卒業生の就職率は98.8%となっています。この他、本学では、各種国家試験の合格を支援するため様々な取組を推進していますが、看護リハビリテーション学部理学療法学科において、理学療法士国家試験の合格率(新卒者)が100%を達成しました。

少子化による大学全入時代に突入し、本学のみならず各大学の学生募集の厳しさが増していますが、全学部の定員確保を最優先課題とし取り組みます。

2-2. 事業報告(短期大学部)

2016年度は、194名が短期大学部に入学しました。この内、国の介護人材確保・離職者支援事業である介護福祉士養成科の訓練生22名、社会福祉学科「美・デザインコース」の学生19名が含まれています。

また、2016年3月の卒業生における短期大学部の就職希望者における就職率は100%を達成しました。なお、2017年3月の卒業生についても就職率

100%を維持し、これで幼児教育学科は15年連続、社会福祉学科は14年連続、就職率100%となります。このような高い就職実績を残すことができたのは、短期大学部教員とキャリア支援センターが一体となり、就職支援を拡充し、就職、キャリア支援に取り組んだ成果だと考えています。

2-3. 事業報告(大学・短期大学部)

1) 大学改革に向けて

大学及び短期大学部では、両学長のリーダーシップの下、大学改革を推進しています。まず、大学経営会議においては、「第1期中期計画(アクションプラン)」をPDCAサイクルに基づき計画、点検、見直しを推進する仕組みを構築しつつあります。また、IR推進センターでは、客観的データに基づく、分析と点検を通して、具体的な施策への反映を進めています。実例をご紹介しますとプレースメントテストにおいて、学生の学習理解度が学年進行に応じて向上していることがデータより分かっています。この他、引き続き退学率の減少に努め、教員の教育・研究等の活動を顕在化するとともに、本学の強みを整理し、施策の選択と集中を図れる組織作りを推進しています。

また、2016年度も文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」、「活性化設備補助金」、さらに「私立大学経営強化集中支援事業」の各種補助金事業の採択を受けました。また、東洋経済 ONLINE にて「生徒を伸ばしてくれる大学」ランキング100において、本学は東海地区の私立大学で第1位に選ばれています。このように各種補助金の獲得や大学ランキングは、本学の教育改革の推進が一定の評価を得ている証と捉えています。

また、大学(4大)では、2017年度に大学基準協会の大学評価を受けるため「自己点検・評価報告書」の申請を行いました。さらに、短期大学では、大学間の相互評価制度等の取り組みに向けて、新潟市の新潟青陵大学短期大学部と9月に連携協定を締結し、大学間の相互交流を始めています。

今年度(2017年度)は、中部学院大学は開設20周年、中部学院大学短期大学部が開設50周年となります。岐阜済美学院100周年事業と協働し、周年事業等に取り組めます。

2) 地域連携・国際連携

本学は、地域に根ざした大学、地域に評価される大学を目指しています。2016年度は地域との連携強化をさらに図り、6月に本巣市、10月に山県市とそれぞれ連携協定を締結しました。これで県内の市町村と連携協定は9例目となっています。さらに、運動部の活躍やスポーツ健康科学部の設置を踏まえ、7月に(公)岐阜県体育協会、8月に(一)岐阜県障害者スポーツ協会と連携協定を締結しました。また、2月には(株)大垣共立銀行、(株)トーカイとの3者による「福祉・医療・教育分野の発展に向けた連携協力に関

する協定」を締結し、地域の福祉と子育て環境の発展に関する事業等を行っています。

地域連携による具体的な事業も活発化しており、本学が参画するネットワーク大学コンソーシアム岐阜による「学生による地域課題解決提案事業」では、地域の課題に取り組む学生の活動成果報告会を12月に開催し、本学のゼミナール授業(クラス)が2年連続の第1位を獲得しました。また、岐阜大学を拠点とする文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に参加し、地元貢献する学生育て「地域志向産業リーダーの協働育成」に取り組むため、地域公開講座「スポーツを通じた地域活性化」を開催するなど様々な活動や地域との交流事業を実践しています。

3) 学生の課外活動

2016年度も学生が課外・クラブ活動において多くの実績を残してくれました。硬式野球部は、東海大学野球秋季岐阜リーグ戦で優勝し、東海大会に出場しました。その原動力となった人間福祉学部の床田寛樹さんは10月のプロ野球ドラフト会議で広島東洋カープから3位で指名を受けました。5月には、陸上競技部で人間福祉学部の五藤怜奈さん(済美高校出身)がイタリア・ローマで開かれた「世界競歩チーム選手権」に日本代表選手として出場し、シニア女子20キロで日本人2位となっています。また、同じく人間福祉学部の杉村ふうかさんも車いす競技でIWAS U23世界競技会や日本パラ陸上競技選手権に出場しています。ゴルフ部の活躍も目覚しく、第60回信夫杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦や第63回朝日杯争奪日本大学ゴルフ対抗戦等において個人と団体において好成績を収めています。

また、本学の学生らが長年にわたり献血活動を推進してきたことが高く評価され、厚生労働大臣表彰を受賞するなど多方面での実績を残しています。

2. 済美高等学校の事業

1. 教育方針

福音主義キリスト教に基づく学校教育を通して、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育てることを目指しています。教職員にあつては、危機意識を共有し生徒の安全と学力保証を第一に考え、課題等を明確にして、その解決に努めるとともに、教育専門職として、常に資質向上に努め、教育目標を明確にして指導しています。また、進路希望の実現に一致協力して取り組み、各教科及び学科・コースの目標を達成するため、生徒が生涯学び続け、主体的に考え、判断し、行動することを通して課題を解決することができるように努めています。

2. 教育活動計画

1) 『共学部普通科』

「選抜特進」「特進」「進学Ⅰ類」の3つのコースを有する共学部普通科では、「学力をつけて、一般入試で四年制大学へ進学する」という方針を掲げ、進学指導のしくみの構築に専心しています。この数年、1年生の早い時期から進学に対する意識を育てること、模擬試験を有効に活用して学習を継続することに力を入れて指導してきました。その結果、3月の卒業生22人は、2人が岐阜県立看護大・静岡文化芸術大の国公立大へ、私立大では、愛知大・名城大・愛知学院大・愛知工業大などの東海地区の中堅私大や、藤田保健衛生大・愛知医科大など看護学部などに多くの生徒が合格し進学しています。

2) 『女子部普通科』

《普通科：進学Ⅱ・健康福祉・生活文化》

女子部普通科の「進学Ⅱ類コース」においては、基礎学力を定着化し、地元私立大学への進学を目指し「健康福祉コース」においては、健康・福祉の基礎・基本を身につけ健康福祉系の大学進学や就職を目指します。「生活文化コース」においては、食物・ファッション等の基礎・基本を身につけ家政科系の大学進学や就職を目指しました。

その結果、今年度において、中部学院大学に4名をはじめ四大に33名合格をすることができました。また、推薦入試においては愛知大学に合格するなど着実に学力の向上を図ることができています。中部学院大学短期大学部に17名をはじめ、短大に36名が合格しました。主な進学先は以下の通りです。

<大学名>

- ・中部学院大学・同志社大学・愛知大学・名城大学・金城学院大学
- ・椋山学園大学・愛知学院大学・名古屋学院大学・鈴鹿医療科学大学など

【保育科】

学科の特色を明確にするとともに、幼児教育・保育系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来保育の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指します。1年生では中学教育と高等学校教育の円滑な接続を図るとともにキャリア教育の一環として保育体験学習を1日、2・3年生では保育実習を6日間実施し、将来、幼児教育、保育に関わる者としての態度を育てることを目指しました。

その結果、保育技術検定1級に24名(3年生24名)、2級に48名(3年生20名、2年生28名)、3級に47名(3年生3名、2年生32名、1年生12名)名が合格しました。また、進学においては、中部学院大学などの四大に9名(22.5%)、中部学院大学短期大学部などの短大に30名(75%)が合格しました。

【商業科】

学科の特色を進学商業科として鮮明にするとともに、今年度から男女共学とし、経営・情報系の大学・短大への進学が出来る学力を保証し、将来商業の専門職に従事できる基礎的な知識・技能等を習得することを目指します。又、進化するICT社会に対応できる簿記やパソコン等、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得し、21世紀の社会・経済活動等に必要な能力や態度を養うことを目指しました。その実現のために、教育課程の改編や簿記専門学校との提携などを通じた簿記授業の強化を図っています。その成果もあって、1年生は、全員が全国商業簿記検定の見事合格を果たすことができました。さらに、資格取得による難関大学等の合格を目指し、放課後や土日補習もほぼ全員が参加し、確実に力が身につけていることが実感できるようになりました。

【衛生看護科】

看護に関する基礎的な知識・技術を習得し、准看護師試験受験資格を得るとともに、将来、看護師となるための資質・能力・態度や豊かな人間性の養成を目指しました。今年度も准看護師試験に全員が合格し、そのうえで全員が進学しました。進学先として、四大へ5名、短大へ4名、高等看護専門学校へ28名進学しました。

3. 広報活動

中学校の教職員や中学生及びその保護者等に、高校生としての学力を保証する中で生徒の進路希望を確立し、それを確実に実現する本校教育の良さを理解していただき本校への信頼を高めています。又、生徒や教職員の活動成果を適時適切に広報し、入学した生徒が着実に成長している姿を理解いただく中で適格者を確保し、入学定員を充足するように努めました。

入試広報活動に対して全教職員の一一致協力体制をより強固なものとするとともに、一宮・西濃・岐阜地区において、学校説明会の内容を更に充実し、学校教育の成果を直接PRしました。他校の動向や受験環境の変化の中での

活動となりましたが、志願者数 1, 0 6 7 名、入学者数は、2 7 4 名で前年比志願者 6 2 名、入学者 6 名と、ともに増加しました。

4. 学校教育改革計画

【宗教】

計画的な指導を通して、本校生徒に相応しい豊かな心を育てるべく、求める生徒像を学年別に具体的に示しました。また、聖書・礼拝指導の内容と方法を改善し、充実に努めました。

【学校経営】

教職員が協力して、教育専門職としての誇りを持ち、教科指導、生徒指導、部活動指導等に専念し、学校教育目標の達成に取り組み「信頼される学校」づくりに努力しました。

【学業指導】

生徒の実態や個に応じた指導を徹底すべく、教育課程の研究改善、各教科・学部・学科・コース間の連携を図り、学業指導の充実に努めました。義務教育段階の学習内容の定着を主眼に置き、学び直し指導を計画的に実施し、職員研修においては、指導内容や成果の検証を行いました。それに加え、ウェブ上での学習であるラインズドリルによる指導にも着手しました。加えて専門学科においては、学科の特色を活かした指導の充実に努め、高等学校教育段階の基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させました。これらを通して本校に学ぶ生徒に対し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的な学習態度を確立し、高校生としての学力を保證することに努めました。

【生徒指導】

全教職員が協力して、教科、特別活動、総合的な学習の時間、部活動の指導における生徒指導を徹底し、挨拶の励行、端正な身嗜みの保持、基本的な生活習慣の確立に努めました。また、学校・学級への適応指導と教育相談を充実し、生徒相互の望ましい人間関係を確立し、生徒一人ひとりが学級の一員として目標を持って、遅刻や欠席及び早退の無い意欲的に学校生活を送れるように指導することや、男女交際の在り方や性に関する指導及び携帯電話・スマートフォン・P C 等情報機器の活用について計画的・組織的・効果的な指導に努めました。

【進路指導】

ホームルーム活動や総合的な学習の時間及び教科指導など、全教育活動を通して計画的組織的に実施し、生徒一人ひとりに自己理解力や進路選択の決定能力を育てつつ、望ましい職業観や勤労観を育てるキャリア教育を行い、生徒の進路目標の達成に努めました。今年度、国公立大学への合格数 2 名、四大合格数 1 2 1 名でした。また、卒業生 2 4 7 名の進路は、四大へ 7 7 名、短大へ 7 1 名、高等看護専門学校へ 2 9 名、その他の各種専門学校へ 2 2 名、就職 3 8 名、その他 1 0 名となりました。

【保健厚生】

生徒の保健・健康・安全指導を計画的に実施し、生徒の健やかな心身を育むとともに、毎日の清掃美化活動を徹底し、美しい教育環境を実現することに努めました。具体的には、災害への適切な対応が出来るように防災教育や自他の生命を守る避難訓練の実施や、関係機関等との協力、健全な保健・厚生に関わる教育活動の実践を目指した学校安全衛生委員会、学校保健安全委員会を実施しました。

【図書】

生徒の実態に即した図書の充実整備及び生徒の読書活動の推進に努め、みずみずしい感性と豊かな人間性を育てることに努めました。

具体的には、読書指導の充実（クラス別新入生向けオリエンテーション）を図り、生徒の図書館利用度を高めることに努めました。学校での「古本市」、夏季休暇後の「読書感想文コンクール」を開催するなど、図書館活動を積極的に展開しました。その結果、生徒への本の貸出数は、年間2,420冊（1人当たり約3冊）となっており、さらに増加させたいと考えています。

【特別活動】

キリスト教主義教育の基本の上に立ち、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事・部活動における指導目標と計画を明確にし、指導内容及び指導方法のさらなる改善に努めました。また、生徒会役員選挙やホームルーム活動では、主権者教育を念頭に置き、生徒の公民的な資質の育成や個性の伸長を図り、学校生活における存在感や学校への帰属意識を高めるように努めました。また環境美化活動として、「花いっぱい運動」を行い、チューリップ、ひまわりを校舎の周りいっぱい咲かすことができました。

【渉外】

岐阜済美学院創立100周年に向けて、教職員と生徒・保護者・同窓生との連携を深めることを目的に、以下の主な取り組みを行い十分な成果を挙げることができました。

- ① P T A 総会出席者数：405名（出席率50.8%、前年比+71名）
- ② 同窓会定期総会出席者数：75名
- ③ 私立高等学校補助金増額請願署名数：39,540筆（前年比+3,510筆）
- ④ 『済美祭』 P T A 食品バザー：1,787食完売（前年比-99食）
- ⑤ 『済美カレッジ』受講者数：122名（全10講座）

今後とも、保護者と同窓生には様々な形で学校行事への参加協力等を促し、充実した創立100周年を迎えたいと考えています。

【部活動】

今年度も新体操部・陸上部、ライフル射撃が全国大会に出場し、新体操部が個人総合優勝、ライフル射撃部が上位入賞を果たすことができました。全体の部活動の活動内容が充実してきました。運動部だけでなく文化系も毎年地域貢献を果たし、今年度は、茶華道部の日々の活躍が認められて、岐阜県ユネスコ協会から『青少年グランプリ人権文化賞』をいただきました。

た。

5. 環境整備状況

1) 教育用機器備品等の整備

教室棟 Wifi 対応及びタブレット・教育ソフトの導入	5, 0 0 0 千円
進路指導室エアコン導入	6 0 0 千円
介護実習モデルの購入	3 3 3 千円
その他備品修繕等 17 件	1, 0 8 4 千円

2) 施設の修繕・整備

体育館第一体育室全面改修	1 3, 5 0 0 千円
南舎 4 F 屋上笠木改修工事	2, 5 3 8 千円
北舎屋上防水改修工事	3, 6 7 2 千円
北舎西玄関昇降口改修工事	7 0 2 千円
本館玄関天井改修工事	7 1 2 千円
散水配管（グラウンド）修繕工事	1, 2 1 0 千円
その他の修繕 9 件	6 3 6 千円

3. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属幼稚園

1. 教育方針

- 1) 建学の精神を深く理解し、神と人とを愛するキリスト教精神による感動・感化・感謝に結ぶ『明るい楽しい愛の幼稚園』経営に努める。
- 2) 体験やふれあいを基にした自然体験活動や造形・音楽表現活動に力を入れ、園児一人ひとりの個性や感性の伸長に努める。国際交流や福祉施設への訪問等を通して交流を深める。
- 3) 教職員研修を通して教師の資質を高め、園児一人ひとりの安全と保育に責任を持つとともに保護者や地域社会の人々から安心と信頼を得られるような開かれた幼稚園を目指し、情熱と知恵をもって保育に当たる。

2. 教育目標 : 『心豊かな たくましい子の育成』

3. 園児の募集及び確保

1) 特色ある保育の推進

- ・教材・教具の整備
- ・教職員研修の充実
- ・幼稚園連合会等への分担金

2) 開かれた園づくりの充実

- ・親子わくわく教室の充実
- ・にこにこプラザ事業の充実
- ・福祉施設への訪問
- ・小学校へ繋ぐ教育相談の実施
- ・保護者へのアンケートの実施

3) 保育環境の整備充実

- ・園舎外壁及び外構塗装工事
- ・にこにこルーム床改修工事
- ・砂場・築山・植木等の補修整備
- ・飼育・栽培関連等管理の充実

4) 広報活動の充実

- ・園児募集月刊誌の広告の充実
- ・未就園児等プレゼントの拡充
- ・ホームページ関連の充実

4. 安心・安全の推進

1) 通園バスの安全運転管理

- ・安全に備えた指導・管理の徹底
- ・車検・点検等の徹底
- ・安全運転管理部会分担金

2) 食育の安全と充実

- ・給食室の修繕等環境整備
- ・安全な食材・食料品の確保
- ・食器・調理用具の充実
- ・害虫駆除及び衛生管理の充実

3) 園生活の安全確保と事故防止

- ・遊具の安全点検と整備
- ・バスロケーションサービスの充実
- ・緊急メールシステム導入

5. 施設設備及び機器備品等の予算措置

・園舎外壁及び外構塗装工事	6,	584	千円
・にこにこルーム床改修工事	1,	345	千円
・給食室の修繕と整備事業		848	千円
・ピアノ新調		432	千円
・月刊誌の広報活動（ぎふ咲楽・ぷらざ・GIFUTO）		394	千円
・排水管の高圧洗浄作業		190	千円
・屋外スピーカーの取替		140	千円
・サテライト会場設置のための機器レンタル		54	千円

4. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部 附属桐が丘幼稚園の事業

1. 教育方針

- 1) キリスト教精神による宗教的情操を養い、神を崇め、人を愛するやさしさ、自分の頭で考えるかしこさ、じょうぶな手足で創りだすたくましさを育てることを目指す。
- 2) 楽しくのびのびと生活することを通して、きまりを守る態度・人間生活に必要なマナーの定着を図る。
- 3) 豊かな自然や広い園庭を活用して、豊かな感性とたくましい体の育成に努める。
- 4) 一人一人に寄り添い、誠意と愛情をもって保育の実践に努める。

2. 教育目標 『なかまとともに 豊かな心とたくましい体をはぐくむ子』

◇ 元気に遊ぶ子（自立）

- ・自分からやりたいことを見つけ、取り組む意欲や態度を育てる。
- ・基本的な生活習慣を身に付け、健康で明るい生活ができる素地を養う。

◇ 仲良く助け合う子（共生）

- ・互いの違いを認め合い、よさを生かし高め合う心を育む。
- ・教師や友達はもとより、自然とも共生する心を育む。

◇ 見つけ創り出す子（創造性）

- ・自分で考え、いろいろな遊びや物を作り出す楽しさを実感させ、創造性を養う。

3. 重点施策：アクションプラン具現に向けての人的・物的環境の整備

1) 楽しく 活力ある 幼稚園づくり

ア. 特色ある園づくり

- ①体力づくり（園庭を生かした活動）
- ②個性を大切にした指導（個の発達に合わせた支援）

イ. 教育環境の整備

- ①健康な体たくましさを育む環境づくり（遊具の活用）
- ②人的環境を充実するための研修の拡充

ウ. 保育内容の充実

- ①教材備品の整備
- ②整備した施設・設備の活用（土・水・風・虫などとなかよし）
- ③子育て支援事業の充実（子育てファミリープラザ）

2) 社会の変化に対応する教育の充実

ア. 国際化、情報化への対応

イ. 心の教育、福祉教育の充実

- ①福祉施設や小学校との交流
- ②自然とのふれあい、地域の施設の活用

ウ. 学校評価の実施と改善（幼稚園協議会の充実）

3) 保護者のニーズに応える保育の充実

ア. 特色ある園づくり

- ①健康づくり、体力づくりの実践（広い園庭の活用）
- ②豊かな心をはぐくむ保育の実践（感動）

イ. 地域における子育て支援センター機能の充実

- ①子育てファミリープラザ（こママプラザ）の充実
- ②「いっしょにあそぼう」の充実
- ③午後6時までの預かり保育

ウ. 教職員研修の充実

- ①園外研修への主体的参加
- ②園内研修の充実「運動遊び」
- ③教員免許状更新への対応

4) 園の刊行物の充実

ア. 職員の実践記録の作成

- ①実践記録集を発行

イ. PR用刊行物の充実

- ①パンフレット、チラシの充実
- ②情報誌「きらら」「ぷらざ」への掲載

4. 施設設備及び機器備品

・園舎内装（天井・壁・床）工事	7, 774千円
・園庭遊具「ユニット砂場」	761千円
・手洗い場改修工事	645千円
・消防設備誘導灯の取り換え（LED）工事	329千円
・園舎東足洗場改修工事	200千円